

## 9 今後の検討課題

本業務において、オリンピック・パラリンピックの開催期間を含む7月中旬から9月中旬の主要競技会場周辺等における暑熱環境を測定することができた。草地・コンクリート・日射の有無などの条件の異なる地点での測定結果より、会場周辺等の暑熱環境の違いについておおよその傾向を知ることができた。また、「環境省熱中症予防情報サイト」で公開されている過去10年の東京の観測値等を用い、主要競技会場周辺等における過去10年程度の暑熱リスクをある程度の精度で把握した。

一方で、初年度ということもあり、施設管理者等との調整に時間がかかり、測定開始が遅くなった地区があった。次年度以降は全地区で同時に測定が開始できるよう、調整を早めに始める必要がある。また今年度は、測定地区の多くがある東日本で、8月が曇りや雨の日が多い不順な天候となったため、晴れの日が続く暑さが厳しい夏の暑熱環境の把握は十分にできなかった。このように暑熱環境は気候等の影響を受けるため、次年度以降も同じ地区で測定を行い、複数年のデータを収集し、関係者と共有していく必要がある。なお、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時には、リアルタイムでのWBGT提供や、予測値の提供が求められると考えられる。

以上から、平成30年度の業務に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・引き続き主要競技会場周辺等において測定を行い、データの蓄積及び関係者との共有を行うこと
- ・測定開始を全地区で7月当初とし、暑熱環境の厳しい日のデータを測定する機会を増やすこと
- ・測定データのリアルタイムでの共有を検討すること
- ・WBGTの予測手法を検討すること